

令和6年度 第1回座間市地下水採取審査委員会会議録

- 1 日 時 令和6年5月27日（月） 14：00～
- 2 場 所 オンライン
- 3 出席者 委 員 守田委員長、中島副委員長、宮下委員、大木委員
事務局 暮らし安全部長、生活安全課長、副主幹兼環境保全係長、主任
- 4 公開の可否 公開 一部公開 非公開
- 5 傍聴者 1名
- 6 議 題 (1) 座間市地下水保全基本計画改定業務委託及び座間市地下水総合調査事業委託について
(2) 令和6年度 地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析委託等について
(3) その他

7 配布資料

- 資料1 出席者名簿
- 資料2 令和6年度 第1回 地下水採取審査委員会 資料 -業務計画（案）-
- 資料3 地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析委託 調査計画案
- 資料4 市内分布結果表
- 資料5 市内分布結果図（非公開）
- 資料6 座間市住居表示等実施区域図（令和2年2月3日）

8 議 事

(1) 座間市地下水保全基本計画改定業務委託及び座間市地下水総合調査事業委託について

① 事務局説明

前回の協議会でもご説明しておりますが、現在の座間市地下水保全基本計画は平成28年度から令和7年度までを計画期間としているため、令和6年度から2か年をかけて改定作業をし、近年の本市の地下水をとりまく状況の変化に対応する新たな計画を策定します。また、今年度は計画の改定作業と並行して地下水総合調査を行い、新しい基本計画に反映させる水循環解析を実施します。

今回はこの業務の計画案について資料2にまとめましたので、皆様の御意見をお願いします。

② 質疑応答

- ・座間市地下水保全基本計画改定業務委託について

中島副委員長 地下水一斉調査は地下水位のみを計測するのですか。

- 事務局 現計画では地下水位のみとしています。簡易水質調査についても今後検討したうえで、実施方針を策定します。
- 中島副委員長 井戸については帯水層ごとに採取し、各層ごとに整理することが望ましいです。複数の帯水層を対象とした井戸の場合、結果の評価が難しいです。
- 事務局 民間井戸については井戸台帳等の情報も踏まえて、帯水層別の地下水コンターを作成します。ストレーナーの位置も井戸によって異なるので、今回改めて調べて整理します。
- 宮下委員 他自治体においても本業務にて調査を行う予定であるが、各自治体の調査結果も確認して進めてほしいです。神奈川県メッシュ調査の測定結果も公開されているので活用していくと良いと思います。
- 事務局 承知しました。収集できる情報は活用します。
- 守田委員長 アンケート調査を実施する際には、結果比較を行うために過年度と同じ質問をはじめとし、新たな質問も設けた方がよいです。特に雨水浸透施設は根詰まりなどが起きやすいので、降雨時の状況や維持管理の実施状況等を聞いたほうがよいでしょう。また、アンケート内容を事前に委員会に確認してほしいです。
- 事務局 承知しました。アンケート内容は事前に委員に確認します。
- 宮下委員 湧水量調査について。調査計画を年2回としているが、谷頭タイプだと雨の影響を受けやすいため2回で評価できないのではないのでしょうか。定量的な評価を行うためにも、時期等も含めて調査計画を検討していただきたいです。
- 事務局 継続的に湧水の保全状況を把握することを目的としていて、代表値として採用することは考えていません。ただ、降水量は把握して取りまとめます。
- 守田委員長 水循環の健全化のシンボルは湧水です。湧水量の変化は重要な指標になるので、今回の議論を踏まえて調査計画を策定いただきたいです。
- 守田委員長 水循環解析に必要なデータは既往調査等もあることから、補完しながら計画を策定してください。
- 中島副委員長 水収支に関して、令和4年度の委員会の際にも水田からのかん養量の妥当性について議論があったので、改めて水田のかん養量については検討していただきたい。
- 事務局 水収支図は更新予定であるため、その中で水田のかん養量についてもご指摘の通り、改めて検討を行います。

宮下委員 秋に実施予定の地下水一斉調査の結果を水循環解析に反映する計画はありますか。

事務局 地下水一斉調査の結果は GETFLOWS の現況解析の妥当性の評価として活用する予定です。

守田委員長 市民にアピールするうえでも、雨水浸透施設がなかった場合、どれくらい被害等が生じるかを示すのも良いのではないのでしょうか。それに加えて、今後どこに設置するのが効果的か検討するのが良いでしょう。

事務局 重点的かん養区域の再設定にも関わるため、意見を参考に解析内容を検討します。

(2) 令和6年度 地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析委託等について

① 事務局説明

まず、地下水調査についてです。資料3をご覧ください。過去の地下水採取審査委員会でお示ししたとおり、昨年度の超過地点1地点、その超過地点付近の1地点、その他4地点で、昨年度と同様9月と1月に計画しております。

昨年度の超過地点がある西栗原地区は、昨年度の地点以外で採水に適したポイントがありませんでしたので、超過地点付近の採水地点については入谷東地区の井戸を選定しました。資料5、資料6をご覧くださいますと分かるとおり、入谷東は西栗原から見て北西に位置する地区です。

また、資料4に記載のとおり昨年度超過地点のストレーナーの位置が地表から25メートル～35メートルと52メートル～56メートルなのに対し、選定した井戸は55メートルですので、深度についても調査に適していると判断しました。

なお、その他の4地点については、以前の計画のとおりです。

次に河川調査についてですが、こちらは経年変化を見るためにも、昨年度と同様に鳩川、目久尻川のそれぞれ下流で1月に調査を行う予定です。

最後に排水路調査についてです。こちらも前回までの地下水採取審査委員会ですら確認をさせていただいておりますが、今年度は9月に2地点で調査を行う予定です。

事務局からは以上となりますが、今年度の調査計画についてご意見等ございましたらお願いいたします。

② 質疑応答

中島副委員長 今回は令和6年度の調査位置の確認という認識でよいですか。

事務局 その通りです。令和7年度以降は今年度の結果を踏まえて検討予定です。

宮下委員 排水路調査について説明してください。

事務局 排水路調査は過年度実施した調査地点のうち、平和橋に流入する排水路の2地点にて実施予定です。

事務局 緑ヶ丘など、調査地点によっては有機フッ素化合物の分析値が減少している地点が存在しますが、この結果について評価をいただけますか。

宮下委員 本調査は分布状況を確認するための調査であり、3カ年の調査結果の値の変化を以て、水質が改善されたのか、データの誤差なのかは評価しがたいです。もうしばらく様子を継続監視した方が良く、たとえば全地点で数年間基準値をクリアしている等の結果となった場合などに改めて評価すべきでしょう。